

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|-----------|-----------|
| 事業所番号 | 3591500206 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人大和福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホームくめの里 | | |
| 所在地 | 周南市大字久米沢田1416-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成31年2月20日 | 評価結果市町受理日 | 令和1年7月11日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク | | |
| 所在地 | 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内 | | |
| 訪問調査日 | 平成31年3月20日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症があっても、自分らしく、生きがいを持って生活できるように地域密着型としての意義を踏まえ、家族や地域との交流をできる限り行うと共に、職員は研修等を実施し、専門的なケアを提供している。日々の生活でも家事作業やレクリエーション、散歩や行事等を行い、心身の機能維持に努めている。また利用者様は個人が活躍できる場を提供できるように努めている。医師、看護師と綿密に連携し利用者様の体調管理に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、事業所周辺の散歩や近くの大型スーパーに車で買い物に出かけておられ、自己決定できる利用者には、自分の好きなもの(化粧品、洋服、おやつなど)を選んでもらい、支払いも自分でされ、その他の利用者には、職員と一緒に食材の買い物をして、自分でできる喜びの支援をされています。利用者全員での外出支援として、季節の花見(梅、桜、バラ、紅葉等)や神社への初詣など、利用者が戸外に出かけられるように取り組んでおられます。法人の管理栄養士と看護師が立てられた栄養バランスの取れた献立を基に、三食とも事業所で職員が食事づくりをしておられます。利用者の状態に合わせてきざみ食やミキサー食、トロミ食、おかゆなど、形態を工夫して提供しておられます。季節の行事食、弁当を持参しての動物園への外出、寿司バイキング、和菓子アート(干支のイノシシ、こいのぼり、紫陽花)づくりなど、利用者が食べることを楽しめるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|--|-----------------------|---|
| 57 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 64 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 58 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 65 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 59 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 60 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 63 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所内に理念等を掲示し、職員で理念等を共有し、日々のケアを実践している。 | 地域密着型サービスとしての事業所理念と併せて、法人の理念を事業所内に掲示し、職員が常に目にすることで理念を共有し、意識して実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | くめの里が自治会に加入している。 また、地域に外出したり、買い物に出掛けたりしている。 行事で地域の方を招いたりしている。 | 自治会に加入し、久米地区自主防災組織の話し合いや訓練に管理者が参加して、地域との連携を図っている。市の介護相談員2名が月1回来訪し、利用者の相談を受けている他、行事や防災訓練、運営推進会議に参加している。事業所の花火大会には、案内状を近所に持って行き、たくさんの人に参加してもらっている他、餅つき大会にも地域の人が参加して交流している。絵本の読み聞かせやハーモニカ演奏、歌、日本舞踊、民謡、紙芝居などのボランティアの来訪がある。管理者は、地域の人から相談を受けたり、中学校に講師として出向き、認知症の理解に努めている。利用者は近くの大型スーパーに車で買い物に出かけたり、散歩時に出合った地域の人と挨拶を交わしたり、果物をもらったりして交流している。 | ・地域とのつきあい方の工夫の継続 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ご家族への相談支援や、地域の中学校に講義に行くなどしている。 | | |
| 4 | (3) | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 職員全員で評価を行い、その意義や意味を理解し、具体的なケアを実践している。 | 管理者は、評価の意義についてミーティングの中で職員に説明し、評価するための書類を配布して、全職員に記入してもらい管理者がまとめている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、法人内研修で緊急時対応についての研修や訓練を実施しているなど、改善に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 外部評価結果の報告や、今後の取り組みについて報告し、サービスの向上に繋げている。 | 会議は年6回開催している。毎回15名程度の参加がある。事業所の取り組みや利用者の状況、行事、活動、事故、外部評価結果などについて報告し、意見交換をしている。参加者からの情報や意見をサービス向上に活かしている。 | |
| 6 | (5) | ○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 普段から相談等を行い、密な関係を作っている。 | 市担当者とは、運営推進会議時に情報交換をしている他、管理者が市に直接出向いたり、電話やメールで報告や相談をし、苦情の対応について、助言を得ているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換しているなど連携を図っている。 | |
| 7 | (6) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 勉強会や、毎月実施する身体拘束防止委員会で身体拘束の有無や、予防策を話し合い、身体拘束の無いケアの実施に努めている。 | 職員は、法人研修で身体拘束について学び理解している。身体拘束について身体拘束防止委員会(毎月)やミーティングで話し合い、運営推進会議で報告している他、法人の身体拘束適正化委員会(3ヶ月に1回)で報告し、予防策を話し合い、身体拘束をしないケアの実践に努めている。スピーチロックについては、職員間で話しあっている。 | |
| 8 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会やスタッフミーティングの場において、虐待について学ぶ機会を持つと共に、普段の言葉がけが適切かどうか等の振り返りも行っている。 | | |
| 9 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 弁護士の方と相談しながら、適切に対応している。 | | |
| 10 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約締結時や、契約内容の変更があった場合等はその内容を丁寧に説明し、理解を得ている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情の受付体制はできている。苦情があった場合は運営推進会議で報告している。 | 相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議時、電話等で、家族からの相談や意見、要望を聞いている。毎月、利用者一人ひとりの状況を担当職員がコメントを記入して、請求書と一緒に送付している。介護相談員が毎月来訪し、利用者の話を聞いて職員に伝えている。リハビリなどの個別ケアの要望にはその都度対応している。 | |
| 12 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月ミーティングで職員からの意見は聴取している。 | 毎月のミーティングで、職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で管理者が職員から意見や要望を聞いている。勤務体制の中での職員の働き方についての意見があり、改善に取り組んでいる。 | |
| 13 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 努めている。 | | |
| 14 | (9) | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内研修や外部研修、または日々のケアの中で指導を行い、職員のスキルアップに繋げている。 | 外部研修は、職員に情報を伝え、受講の機会を提供している。認知症介護実務者研修に2名参加している。毎月ある法人内研修(食中毒、認知症、止血法、看取り、生活リハビリ等)には、職員が自主的に参加している。管理者は、日常業務の中で助言や指導をしている。法人内で資格取得のための勉強会を毎月開催し、職員が働きながら学べるように取り組んでいる。 | |
| 15 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 職場内研修や、外部研修で他職員との交流を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 16 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス導入前に家族や本人と面談を行い、本人の安心確保に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス導入前に家族や本人と面談を行い、不安や要望等の聴取を行っている。 | | |
| 18 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | サービス導入前に面談を行い、その時必要とされるサービス内容を家族や利用者と共に決めている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 出来ることや得意なことを見極め、活躍できる場の提供を心掛けている。 | | |
| 20 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族も参加できる行事を積極的に行い、その時には家族にも手伝っていただいている。 | | |
| 21 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会や家族等との外出に柔軟に対応している。 | 家族の面会や親戚の人、利用者が住んでいた地域の社会福祉協議会の人や近所の人などの来訪がある他、電話の取次や、手紙の受け取りと返事を出す支援、年賀状を出す支援をしている。自宅周辺へのドライブや家族の協力を得て、墓参り、法事や葬儀への参加、外食や外出など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。 | |
| 22 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員は利用者様の人間性を理解し、必要な関わりを持つことで、孤立しない環境を作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 23 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 相談支援を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 24 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 努めている。 またその内容をカンファレンスで検討し、本人本位のケアプランを策定している。 | 入居時に本人や家族から聞き取りをして作成したアセスメントシートの活用や年1回ケアチェック表を作成している他、日々の関わりの中で利用者の言葉や表情、職員の気づきなどを24時間支援ノートや業務日誌などに記録して思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族から聞いて職員で話し合い本人本位に検討している。 | |
| 25 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の面談時に把握するようにしている。 | | |
| 26 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の生活の中から、現状の問題点等の把握に努めている。 | | |
| 27 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族からの意見の聴取、介護職員や医療職の意見を元に現状に即したケアプランの策定に努めている。 | 新しい入居者の場合は、管理者が入居者のアセスメントシート(フェースシート)に基づいて、利用者や家族の意向、身体状況等を把握して、家族の面談を基に介護計画を作成している。その後は、利用者を担当している職員が、利用者の思いや家族の意向、医師の意見を参考にして評価表を作成し、計画作成担当者、看護師、担当職員、他の職員などが参加して担当者会議を開いて話し合い、介護計画を作成している。日々、計画の実施状況を記録し、6ヶ月毎に評価表を作成してモニタリングを実施し、計画の見直しを行っている。利用者の状態に変化があれば、その都度検討して見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子等は毎日介護記録等に記入し、必要なことは申し送りで職員同士が共有している。 また必要であればカンファレンスを実施し、計画の変更を行っている。 | | |
| 29 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 取り組んでいきたい。 | | |
| 30 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源の把握を行い、楽しんで生活出来るように支援している。 | | |
| 31 | (13) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医による往診や、必要時の受診を行っている。またご家族や本人の希望があれば、その方のかかりつけ医の受診も行っている。 | 利用者は全員、協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関から、2週間に1回の訪問診療がある。訪問診療時には、看護師が情報伝達表で利用者の状態を伝えている。他科受診は、家族の協力を得て受診の支援をしている。法人の看護師とは、利用者の状態などを毎月情報交換して、看護師から適切な指示を得て、医師と連携を図っている。夜間や緊急時には、管理者や看護師に連絡して、医師の指示を受けて対応し適切な医療が受けられるように支援している。 | |
| 32 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師と毎日情報交換を行い、その指示の下で介護を提供している。 | | |
| 33 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 情報提供や、今後の対応等をしっかりと話し合っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 34 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合の今後の対応等を、医師、看護師、介護職、ご家族、本人と検討し支援を行っている。 | 契約時には、「重度化した場合における対応に係る指針」「重要事項説明書」に基づいて、家族に事業所のできる対応について説明し、同意書を得ている。実際に重度化した場合は、その都度、家族や医師、看護師と話し合って方針を決め、共有して支援している。職員は法人内研修で看取りについての研修を受講し、看取りにも対応している。 | |
| 35 | (15) | ○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。 | 事故発生時はその予防策を検討すると共に、勉強会等を通じて緊急時対応の実践力を身につけている。 | 発生時には、事故状況報告書に、その場にいる職員が発生状況や原因等を記録し、管理者や看護師が対応策を検討し、申し送り等で全職員が共有している。月1回のミーティングで再検討し、介護計画にも反映して、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。AEDの使い方、止血法、搬送法、骨折、ショック対応、感染症などについて、法人内研修で学んだり、日常業務の中で、管理者が実践訓練を行っているが、全職員が実践力を身につけているとまでは言えない。 | ・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続 |
| 36 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 訓練を実施すると共に、久米地区自主防災組織の方にも状況の説明を行っている。 | 年2回、消防署の協力を得て、昼夜想定の実践を実施している。訓練は、通報、避難、誘導、初期消火の他、避難経路の確認を利用者と一緒に行っている。地区コミュニティの推進協議会長、介護相談員、自治会長などの参加がある。地区自主防災組織と連携して、地域との協力体制を築くように努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 37 | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 対応している。また不適切な表現があった場合は職員同士で注意しあい、適切な言葉かけを行っている。 | 利用者一人ひとりのその人らしさを大切にして、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な言葉かけなどあった場合は、職員間で注意している。 | |
| 38 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 出来る限り行えるように支援している。 | | |
| 39 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 出来る限り行えるように支援している。 | | |
| 40 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | パーマや毛染め、化粧等を行っている。 | | |
| 41 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 実施している。 | 法人の管理栄養士と看護師が立てた栄養バランスの取れた献立を基に、三食とも事業所で調理している。利用者の状態に合わせて、きざみ食、ミキサー食、とろみ食、おかゆなど形態を工夫して提供している。利用者は、味付け、盛り付け、テーブル拭き、下膳、お盆拭き、食器洗いなど一人ひとりのできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで同じものを食べている。おせち料理、おはぎ、餅つき後のぜんざい、年越しそばなどの季節の行事食、弁当を持参しての動物園への外出、寿司バイキングの他、和菓子アート(干支のイノシシ、こいのぼり、紫陽花)を利用者と一緒につくっている。家族との外食など、食べるのが楽しみになるように支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの状態を把握し、適切な食事等を提供し摂取量の安定に努めている。 | | |
| 43 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 実施している。 | | |
| 44 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | できるだけトイレで排泄できるように支援している。 | 排泄チェック表を活用して、利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの状態に合わせて言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄ができるように支援している。 | |
| 45 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分量や食事形態、運動量や体調等の把握に努め、便秘予防に繋げている。 また、毎日看護師に排便状況を報告し、指示をもらっている。 | | |
| 46 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 曜日や時間は決まっているが、週に3回は入浴していただいている。 | 入浴は、毎日13時から16時まで可能で、利用者の希望や体調に合わせて、週3回は入浴できるように支援している。入浴中、利用者は歌を歌ったり、職員との会話を楽しんでいる。特殊浴槽があり、身体状態に合わせて対応している他、シャワー浴、足浴、部分浴を行っている。入浴をしたくない利用者には、時間の変更や職員の交代、言葉かけに工夫して入浴の支援をしている。 | |
| 47 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 努めている。 | | |
| 49 | (21) | ○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 行事や、レクリエーション、散歩等を通じて気分転換を行っていると共に、家事作業等で活躍できる場の提供を行っている。 | テレビ(歌番組、笑点、スポーツ番組、昭和史、日本昔話、動物番組)やDVDの視聴、新聞や週刊誌、童話を読む、歌を歌う、ちぎり絵、折り紙、月毎の作品づくり(季節の飾り)、風船バレー、魚釣りゲーム、景品釣りゲーム、かるた、百人一首、洗濯、洗濯物干し、洗濯物たたみ、モップかけ、掃除、シーツ交換、窓拭き、カーテンの開閉、食事の準備や片づけ、草取りなど、利用者一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面をつくり、喜びや張り合いのある日々を過ごせるように取り組んでいる。 | |
| 50 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 家族との外出や行事での外出等を行っている。 | 周辺の散歩や近くの大型スーパーに車で買い物に行き、自己決定できる利用者には、化粧品や洋服、おやつなど、自分で商品を選び支払ってもらい、その他の利用者には、職員と一緒に食材を選んでもらうなど、自分でできる喜びを感じてもらっている。利用者全員参加の季節の花見(梅、桜、バラ、紅葉など)や神社の初詣に出かけている他、家族の協力を得て外出しているなど、利用者が戸外に出かけられるように支援している。 | |
| 51 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 買い物行事等を実施し、お金を使うことを支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|----------------------------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状や暑中見舞いの作成、希望時の電話での会話等を支援している。 | | |
| 53 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 実施している。 | リビングダイニングのフロアは、明るく広々としている。2ユニットは間仕切りだけで分けてあり、利用者はお互いに行き来して交流ができる。テーブルや椅子、テレビやソファが配置しており、利用者は、それぞれの居場所で思い思いに過ごしている。壁面には、利用者と職員でつくった季節の作品を飾ったり、玄関に季節の花を生けてあるなど季節感を採り入れている。事業所で三食とも食事づくりをしているので、対面キッチンからは、調理の音や匂いがしていて、生活感がある。温度や湿度、換気に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | |
| 54 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | その時々に応じて適切に対応している。 | | |
| 55 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 工夫している。 | 居室には、整理ダンスやテーブル、椅子、ハンガーラック、仏壇、ソファ、テレビ、時計、鏡、化粧品、衣類、ぬいぐるみなど、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、自分の作品や家族の写真を飾って利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | |
| 56 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 役割や、出来ることを活かせる工夫をしている。 | | |

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームくめの里

作成日: 令和 1 年 7 月 11 日

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|-------------------------------|--------------------------------------|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 2 | 地域との付き合い方の工夫の継続。 | 今後もより風通しの良い事業所として、地域に根差した環境を作る努力を行う。 | 地域密着型サービスとして、積極的に地域住民や関係者の来訪を支援し、また地域の施設の有効活用を行う。 | 1年 |
| 2 | 35 | 全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続。 | 全職員が応急手当や初期対応の訓練を通じて、必要な技術を習得できる。 | 法人内研修や、日頃の訓練を通じて応急手当や初期対応の技術を習得できる。 | 1年 |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。